

2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番27	福山市立駅家南中学校
最終更新日 2023年(令和5年)2月20日		

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100EN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容
○ファシリテート型授業が本当に現状にあっていいのか今後続ける必要があると思う。
○なぜ教職員が時間外をする必要が発生しているのか調べ、本来すべきこととそうでないものを確認する必要があると思う。
○登下校の通学路の把握が必要ではないか。
○新しい学習方法、新しい体力アップを先生、生徒ともに考え思考する必要がある。

児童生徒の現状
○落ち着いた生活はできている子どもが多いが、自分から課題を見つけたり、創意工夫して新しいことにチャレンジしたりする態度が、授業の中で十分に育成できているとは言えない状況である。
○一昨年度、昨年度と、感染症対策のために地域での活動は大きく制限された。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)
めざす子ども像(義務教育修了時の姿)

コミュニケーション力 協調性・思いやり

駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒

中学校区として統一した取組等

- 「認知のしくみ」から設定したテーマを踏まえた授業を行う
- 保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる
- 自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。

III 自校

ミッション
未来・地域から預かった生徒が、故郷に愛着と誇りを持ち、自立して社会に貢献できるよう、励ましながら鍛える。

学校教育目標
自立して 社会に貢献できる 生徒の育成

現 状				
○生徒アンケート(肯定的解答率 単位%)				
授業はよくわかる	82	学校へ行くのは楽しい	75	
授業で自分の考えを説明したり書いてまとめてたりしている	75	みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくろうとしている	78	
授業で友達と話し合ったり自分の考えを深めたりしている	80	今学期図書館を利用した	21	

○令和3年度全国学力・学習状況調査結果 ()は市平均 単位%			
国語	18(H30)	19(H31)	21(R3)
A	74(75)		
B	59(60)	65(72)	59(63)
数学	18(H30)	19(H31)	21(R3)
A	68(65)		
B	41(43)	48(58)	46(53)

○体力運動能力調査 県平均以上の項目数 18項目中3項目			
---------------------------------	--	--	--

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	めざす子ども像	問題解決力	コミュニケーション力	協調性	チャレンジ
		問題解決	コミュニケーション	協調性	チャレンジ
めざす子ども像	1年	多様な視点から物事を考えることができ	自分の考え方や思いを理由を明確にして伝えることができる	相手の立場が尊重できる	自らの目標を持ち、目標達成のために何事もあきらめずに取り組むことができる
	2年	自ら課題を発見し課題解決のための自分の考え方を持つことができる	事実と意見を区別して相手に分かりやすく伝えることができる	互いに関わりながら相手の立場を考えた行動ができる	自らの夢や目標を持ち、その実現に向け何事にも最後まで粘り強く取り組むことができる
	3年	望ましい解決策を導き出すことができる	自分の考え方や思いを論理的に相手に分かりやすく伝えることができる	互いに関わりながらその場に応じた行動ができる	自らの夢や目標の実現に向けての見通しを持ち、失敗を恐れず最後まで粘り強く取り組むことができる
研究	テーマ	「学び」のファシリテート			
	内容等	「ファシリテート」を切り口に、日々の授業を「学び」が起きる授業に変えていく ・問い合わせを変える(つなげる、ふかめる、すらす) ・教師の説明→生徒の活動 ・形態を変える(トップダウン→ボトムアップ) ・ICTを活用する			
めざす授業の姿		・目を輝かせて、楽しそうに、教科の内容について考え、発言している。 ・他者との対話を通して、自分の考え方を見直したり、新たなことに気付いたりしている。 ・課題を解決するために、既習事項を関連付けて、考えたり、話し合ったりしている。 ・自分の考え方を、言葉や数、図、思考ツール等を用いて、筋道を立てて説明している。			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	加セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	加セ 評価	達成 評価	総合 評価
1	生徒が自ら選択・決定し、行動することを大切にした授業づくりへの転換	★ 新規	日々の授業に、教師が説明する場面だけでなく、生徒が自分から考えたり話し合ったりする場面がある。	全教科で共通して実施する最低限のこと(活動、発問等)を設定し、日々の授業での実施	生徒アンケートの学びに係る質問項目の肯定的評価の割合をすべて80%以上にする。	・生徒アンケートの学びに係る質問項目70項目のうち、37項目が80%以上であった。	2	2	・すべての生徒が1時間の中で、「分かった・できた」を実感できる学習活動を全授業で行う。	・生徒アンケートの学びに係る質問項目70項目のうち、41項目が80%以上であった。	2	2	2	発見や驚きのある時間をつくり、関心や意欲をもって学習に取り組む授業を行う。
							2	2	2	・生徒が自ら選択・決定し、学んだことを日常につなげる授業づくりを意図的に仕組む。	2	2	2	・学習課題や学習方法などを生徒が自ら選択・決定する授業づくりを工夫する。
2	生徒が「学校へ行くのが楽しい」と感じることができる学級や学年の創造	新規	すべての学級で生徒が主体的に話し合い、合意形成し、改善に向けて行動している。	生徒が主体的に企画・運営する学校・学年行事の実施 学級活動(L & S)における話し合い活動の実施	生徒アンケート「学校へ行くのは楽しい」の肯定的評価を80%以上にする 欠席日数30日以上の生徒を新たに出さない。	・生徒アンケート「学校へ行くのは楽しい」の肯定的評価は、78%であった。 ・欠席日数30日以上の新規の生徒が6名出た。	3	2	・生徒が企画・運営する学年行事の実施とともに、日々の学級活動で、生徒が考え、決めて、主体的に動く場面を全クラスで作る。	・生徒アンケート「学校へ行くのは楽しい」の肯定的評価は77%であった。 ・欠席日数30日以上の新規の生徒が6名であった。	2	2	2	・生徒が一人一人課題意識を持つような学活を仕組む。 ・生徒が企画運営する学年行事の実施をする。
3	持続可能な社会の担い手としての、生徒の自覚と行動力の育成	新規	総合的な学習の時間をSDGsの視点から見直し、3年間を通して探究的な学習を系統的に実施する。	地域人材を活用した体験的な学習の実施 職場体験学習の復活	生徒アンケートに総合的な学習の時間の項目を新設し、肯定的評価を80%にする。	・「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」72%	3	2	・1年生で地域の事業所等を訪問し、現地調査を行った。 ・2・3年生で地域人材を活用した体験的な学習を実施する。	・「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」80%	3	3	3	1年生で地域の歴史やよさなどを現地調査し、学習した。2年生で、企業と連携して、旅行企画学習を実施した。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多くつた。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかつた。